２０２６（令和８）年度市政懇談会　開催結果概要

●日　時　令和８年７月３１日（月）午後１７時３０分～
●会　場　阿寒町公民館
●参加者　１３人

〔市長より説明　（別途資料参照）〕
（１）釧路市の財政状況及び事務事業見直しの今後の取り組みについて
（２）釧路短期大学の公立化について
（３）北陽高校移転の検討について
（４）阿寒地区の取り組みについて
（５）令和８年度の市の取り組みについて

●意見交換

【参加者Ａ】

令和８年度、９年度の２年間で１６億円削減は大変厳しい数字と思います。自分も含め多くの市民が思っていることは、削減目標を達成したとしても、はたしてその状態を何年続けていけるのか、財政が好転する見込みがあるのでしょうか。今般、財政が厳しくなったのは、物価の上昇が大きな要因であり、今後も右肩上がりに上昇していくのではないのでしょうか。市と市民が一体となり取り組まなければならないと思いますが、今後さらに厳しい状況となるのではないでしょうか。

【財政部長】

事務事業見直しの見通しについて、財政が厳しくなった大きな要因は、人件費や物件費などの上昇です。市税の収入も増えている状況ですが、過去３年の平均でも人件費で約５％、物件費で約３％の上昇率に対し、市税の伸び率は１％程度となっておりますので、見直せるところは見直しをおこなっていきます。この２年間の取り組みの後でも、赤字は増えていくと思われます。公共施設なども見直しますが、やはり歳入を確保しなければならいので、ふるさと納税等の取り組みをしっかり進めていき、医療や福祉など生活に必要なものはしっかり守っていきながら、見直しをおこなっていきたいと思っております。

【市長】

事務事業の見直しについては、皆さんも物価上昇等のあおりを受け大変厳しい状況の中、いろいろな見直しをおこなうのは心苦しいと思っております。ただ、この２年間でけりをつけ、前に進めていきたいと思っております。今は物価上昇局面にあり、経費があがっている中で、施設の使用料等は電気代や人件費も上が

りますので、値上げしなければならない状況でした。物価が上昇し、皆さんの給与が増えると市税も増えます。もっと物価が上昇すると難しいところもありますが、市の収入も歳出に追いついていく可能性もあります。人口が１６万人から１５万人に減った期間は短かったですが、人口減少を少しでも緩和していかなければならない。若い世代が入ってきて、子供の出生数も維持できるような形をつくっていかなければならない。そのようなところに政策的な予算を付けていき、釧路市の未来を持ち直していきたいと考えております。ここでけりをつけ前に進んでいく予算編成をしていきたいと思っております。市役所で今まで行ってきた事業でも、賞味期限が切れたような事業、なかなか効果が出ない事業は止める判断をくだしながら、この先に向けて進んでいきたいと考えております。

【参加者Ｂ】

財政難を理由にいろいろなイベントが無くなったり、交付金が少なったりしています。もっとやり方を工夫すると、無理しなくても実施できるのではないでしょうか。ふるさと納税事業は、凄く潤っている近隣の町村もある。釧路市もできるのではないでしょうか。敬老の集いも無くなったと聞きました。やり方次第でできませんか。１年に１回顔を合わせる老人がたくさんいます。人口が少なくなり文化行事なども参加する人がいないので無くなってきている。そのようなものを推進できるよう支援していただきたい。町内会館を利用させていただきありがたいですが、利用者も高齢化し座布団で座れないです。背の高いテーブルにして椅子に座れるよう備品の更新もお願いしたい。使用料については、場所により時間で徴収する施設や午前・午後といった枠で徴収するところがあり、同じ設定にできませんか。

【阿寒町行政センター長】

敬老会につきましては、まちづくりなどに携わってこられた高齢者の皆様を敬うという意味で敬老会が存在していると思います。長い間実施してきた中で、阿寒だけではなく釧路、音別も参加者が非常に少なくなってきたことから、釧路市として敬老会の役割について終えたと判断し、今年度から廃止にしました。町内会単位で敬老会を続けられている団体もあるかと思いますが、その中でも、参加できる人とできない人がおり、そのありようも議論していると聞いております。ご理解をお願いしたいと思っております。

【市長】

代替になるようなものを含めて一度お話させていただきたい。ふるさと納税について、昨年度は最高額でした。他自治体と比べると少ないのはわかっていま

すが、これからも増えると財政的も好転することができるので、頑張っていきます。

【阿寒町行政センター長】
　施設の使用時間等について、現在事務事業見直しをおこなっている中で、今回頂いた意見を参考に検討をしていきたいと思います。

【参加者Ｃ】
　今年の春に、地域のこし協力隊という団体を立ち上げました。重点を置いているのは、栽培したトウモロコシを使って商品開発をおこない、ゆくゆくは、ふるさと納税の返礼品等として使っていただきたいと思っています。タンチョウが、レッドリストの改定により、絶滅危惧種から準絶滅危惧種に下がり、今後は国からの保護の支援は縮小していくものと思っています。国が支援を縮小した場合、市として支援していくべきと思っていますが、財政が厳しいとの説明を聞きましたので、自分達の商品をふるさと納税の返礼品として使っていただき、そのお金を支援に充てていただきたいと思っています。ふるさと納税の仕組みは解りませんが、申し込みの際の使途にタンチョウ支援等の欄を作り支援に充てていただく他、市と友好都市を結んでいる出水市との交流に使用したいと考えているが可能でしょうか。
　また、ふるさと納税で使用目的が指定されたお金が、一般財源となり直接使用されていないとの話を聞いたことがあります。そのような事であれば、納税した方の気持ちを踏みにじる行為だと思いますが、本当でしょうか。

【副市長】
　ふるさと納税の使途については、現在９つの項目があります。その中には阿寒地域で使用するとの項目もあります。タンチョウの保護支援等はこの項目に該当となります。タンチョウ保護のためにふるさと納税を使うということは、市で協議をおこない、支援が必要との判断になれば可能と考えています。ふるさと納税で使用目的が指定されたお金は、一度一般財源となりますが、指定された項目以外には使っていません。市のふるさと納税はマーケティング戦略室がおこなっていますので、一度相談してください。

【市長】
　タンチョウが準絶滅危惧種に下がったことについて、国の支援は縮小するものと思っています。我々は、絶滅寸前から千羽を超える数まで増やしていった実績もあり、ハード面や人材面でも揃っているところは無いと思います。市として、

保護の観点と観光の観点を両立させるような施策が必要と考えています。出水市の交流については、子供達の交流は大切なことと思います。今後事業として実施できるのか、相談させていただいて検討していきたと思います。

【参加者Ｄ】

阿寒診療所について、若い医師２人が勤務してくださり感謝しています。先生達も阿寒町は良いとおっしゃっていただきました。看護師については、少人数で介護施設に入るような状態の入院患者の世話をしています。現状として、看護次師が不足していないのかお聞きします。

【阿寒町行政センター長】

地域医療をしっかりおこなっていきたいとの思いで、２人の医師にきていただきました。総合診療科で今必要な人材であり、来ていただいたことに感謝しております。地域で完結できるような、かかりつけ医の役割や市立病院等との連携を担っていただいている中で、スタッフもしっかり確保していかなければなりません。足りているかいないかについては、定数や必要な人数は確保しています。今後、必要な人材確保をした中で診療所の運営をおこなっていきたと思っています。

【参加者Ｅ】

昨年７月３０日に津波警報が発令された際、阿寒町に釧路市内から沢山の方が車で避難されてきました。コンビニの駐車場がいっぱいになり、利用できないような状況となりました。その後、行政センターの職員が誘導していました。そのような場合の避難所周知や駐車場があった方が良いのではないかと思います。大楽毛に避難所ができましたが、阿寒町にも避難所を設置しても良いのではないでしょうか。

【総務部長】

意識が高く、避難をしていただいたことは嬉しく思います。正しい理解として、コンビニの駐車場は避難場所として指定しておりません。出前講座等で周知を広めていますが、市としても周知が足りなかったと思います。引き続き、地道に丁寧に周知をおこなっていきます。家にいる際、津波警報が出た場合は、最寄りの避難場所へ避難するという理解を広めていきたいという一方で、突発的に発生する津波について、湿原展望台や近隣の町村まで避難される市民の方もおります。そこまで避難しなくても良いとの考えもありますが、被害を意識しながら避難をされていますので、繰り返しになりますが出前講座等で周知を徹底して

いきたいと考えております。
【市長】
　大楽毛や音別で避難タワーを造っているのは、津波の到達範囲だからです。それに合わせて、国が大津波に対する法律をもっていて、補助が手厚くでるということです。なので、市も整備ができます。阿寒地区は津波の到達範囲に無いため、国の補助も無く市としてもハード面の整備は考えていませんが、公民館等の既存施設を上手く活用するような方法を市や住民が考えて実現していきたいと思っております。

【参加者Ｃ】
　阿寒国際ツルセンターの指定管理を行っていますが、利用料を値上げすることで、来館者等からクレームが出る可能性があります。観光地によってやり方があり、市内や市外、外国人によって料金設定をしているところもあります。利用者からクレームがこない対応をしていただきたいです。また、料金を値上げした分で施設の改善をおこなってほしいです。
　別の質問になりますが、阿寒町行政センターで勤務している阿寒町出身の方や在住の方が、凄く少ないと思います。旧阿寒町職員だと相談もし易いですが、釧路地区から来た職員の場合は話難いなどの意見もあります。旧阿寒町職員を行政センターへ配置していただけると、頼り易く相談等もし易いと思います。

【財政部長】
　使用料等の見直しについては、令和元年の消費税改正以来で暫くの間、見直しをおこなっておりません。今回は施設の目的にあった使用料を設定します。施設の維持コストにあった使用料等を設定することによって、施設への投資等も行っていけるようにと考えています。施設の指定管理について、利用料金制の施設は料金を上げることにより、若干利用者は減るかもしれませんが、半分は市の収入としてみさせていただきますが、半分は指定管理者の収入としているところです。

【阿寒町行政センター長】
　阿寒町行政センター職員と話し難いとこのことですが、どんどん話に来ていただきたいと思っています。現在、旧阿寒町職員が行政センターに在籍している割合は、全体の２割程度です。合併から２０年が経過し、旧阿寒町職員がどんどん退職していることもあり、旧阿寒町職員を優先的に集めるということは不可能です。そのような状況でも、どんどん行政センターへ来て、様々な課題があっても職員とコミュニケーションを取っていただければ、課題解決に繋がること

もあると思います。人事については、難しいところはありますが、ご理解をいただければと思っています。

【市長】
　気持ちは分ります。合併前は旧阿寒町職員として採用となった場合、阿寒町に住み、家を建てて住んでいる方が多かったです。一方で、市職員は採用後、どこに住んでも自由となっています。現在、阿寒町行政センターに在籍している職員は、阿寒町行政センターで勤務したい方が多くいます。理由は、地域住民の雰囲気が良いと言っていますので、住民の方と壁があるのであれば、職員が外に出ていくよう伝えますが、地域の方も職員と仲良くなっていただけると、良いと思っております。

【参加者Ｆ】
　事務事業の見直しをおこなう中で、職員の人件費についてどのように考えているのかお聞きします。

【市長】
　職員の給与を見直すつもりはありません。しっかり働いている職員の生活を守っていきます。物価上昇に合わせて人件費も上昇局面にあります。年間３パーセント程度あがっています。それでも、人にかけるお金は必要と思っています。働き方改革にも取り組んでおります。しっかりと人材育成、働きやすい職場、笑顔で働ける環境をこれからも作っていきたいと考えております。